

重点ナノテクノロジー支援課題

2009A 研究成果報告書の発行にあたって

(財) 高輝度光科学研究センター (JASRI/SPring-8)

利用研究促進部門 ナノテクノロジー利用研究推進グループ

グループリーダー 木村 滋

財団法人高輝度光科学研究センター(JASRI)では、2002－2006 年度に実施した国家プロジェクト「文部科学省ナノテクノロジー総合支援プロジェクト」での経験を活かし、2007 年度から「重点ナノテクノロジー支援」を自主事業として実施しています。本支援は5～10 年後のイノベーション創出を目的としたナノテクノロジー・材料分野の研究を対象に、SPring-8 放射光を利用した研究支援を重点的に行うことを目的としています。これまでに5 回の公募が行われ、計 240 課題が実施されました。その中からは既に Nature Nanotechnology、Angewandte Chemie International Edition、Nano Research、Applied Physics Letters, Journal of American Chemical Society 等、国内外の論文誌に記載される成果も着実に出ております。

さて、本報告書は第 5 回目の公募である 2009A 利用期間(2009 年 4 月～2009 年 7 月)で実施された研究課題 41 件について各研究者から提出された報告書を取り纏めたものです。今回も、重点領域 3 テーマ(次世代磁気記録材料、エネルギー変換・貯蔵材料、ナノエレクトロニクス材料)と先進新領域 4 テーマ(新規ナノ粒子機能材料、新規ナノ薄膜機能材料、新規ナノ融合領域研究、新規ナノ領域計測技術)に分類いたしましたが、それぞれのテーマで独創的なナノテクノロジー研究が展開できたと考えております。本報告書を読めば、SPring-8 のナノテクノロジー研究の最先端が理解でき、今後の研究活動の参考になると確信しております。

ご存じのように、2009 年末に行われた行政刷新会議の事業仕分けでは、SPring-8 の運営につきまして、「(2010 年度予算を)3 分の 1 から 2 分の 1 程度縮減」との大変厳しい評決結果が出されました。幸いにも、SPring-8 の利用研究者の皆様が一丸となってその必要性、有用性を強く訴えて頂いた結果、最終的には前年度比約 2%の削減で留まりましたが、今後も SPring-8 予算を取り巻く状況は大変厳しいことには変わりはありません。私どもも、「重点ナノテクノロジー支援」のような新規の先端的産業領域を切り開く施策の重要性について国と社会に広く広報し、有用・有効性を広くアピールしていく所存ですので、課題を実行されている皆様におかれましても、より一層の成果発表、情報発信をお願い致します。

最後になりましたが、今回の 2009A を利用いただき、報告書を提出いただいたユーザーの方々、および本支援事業の関係者の方々に深く感謝致します。